

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

(1)新学習指導要領に関わる理論研究では、授業を通して、言葉による見方・考え方を働かせて、学習指導要領に示された目標を達成することが、国語科教師がなすべきことであることを述べてきました。それに関わっては、これまでも、多くの学校で優れた実践がなされてきており、中学校国語科にとって貴重な財産になっています。しかし、生徒を取り巻く環境が大きく変化し続けている現在、これまで以上に、実社会に通用する資質・能力、つまり国語科においては言葉の力を育成することが求められています。そのためには、今、生徒ができていないことがあるならば、その原因を生徒に求めるのではなく、教師が自分の授業を振り返り、指導方法を工夫し、質的に改善していかなくてはなりません。

そこで、授業の質的改善に当たっては、目の前の生徒がどのような姿で授業に臨んでいるかを常に把握し、それを基に自分の授業を見直すことが必要であると考えました。まずは、通常の授業の様子を記録し、そこに現れた生徒の発言やつぶやき、成果物などから生徒の実態を把握します。次に、明らかになった生徒の実態から、その要因となる教師自身の課題を導き出し、把握します。そして、その課題を解決するための手立てを検討し、次の授業にその手立てを取り入れるという図 1 のようなプロセスを繰り返すことで、授業が質的に改善されると考えます。

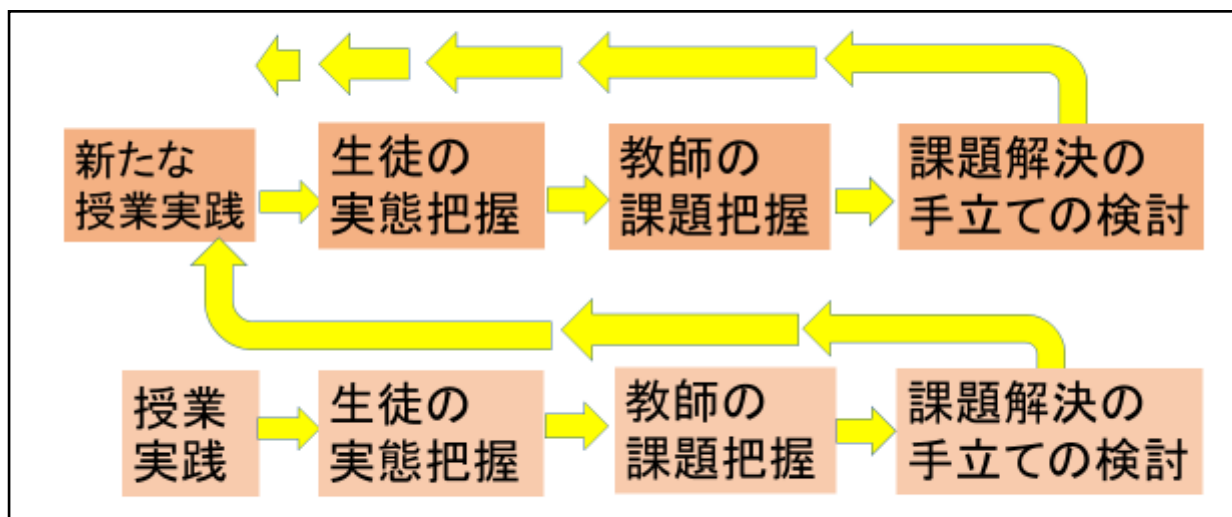


図 1 授業の質的改善のプロセス

これを受けて、本研究委員会では生徒の学習における望ましい姿を主体的・対話的で深い学びの視点で学習過程ごとに整理し、それに対応する授業改善の手立てを考えました。次頁表 1 は授業における生徒の望ましい姿、3 頁表 2 は授業改善のための手立てとして考えられることをまとめたものです。以下の手順に従って、御自身の授業を振り返ってみてください。

- ① これまでの授業実践を振り返るために、表 1 「生徒の姿チェックシート」を用いて、指導している学級の生徒の実態を把握する。
- ② 表 1 「生徒の姿チェックシート」にチェックした状況と照らし合わせながら、表 2 「授業改善の手立てシート」を用いて、教師の授業の課題を把握する。
- ③ 表 2 「授業改善の手立てシート」を参考にしながら、課題解決のために取り入れた方がよいと思う手立てを検討して、決定する。
- ④ 決定した手立てを、この後の授業（単元）に取り入れて新たな授業実践を行う。

年間を通してこの手順を繰り返し、授業の質的改善を図っていきます。

表 1 生徒の姿チェックシート

※過半数の生徒ができていると思われる項目のチェック欄に✓を付けます。

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☐	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている	☐	A③⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☐	B①②③
	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☐	B②④
第二次 (展開)	カ 困難な学習にも諦めずに取り組んでいる。	☐	A⑥ C⑤⑥
	キ 自分の考えを持って学習に取り組んでいる。	☐	A⑥⑦ B⑥⑦ C③④⑤
	ク 課題解決につながる情報を探し、利用しようとしている。	☐	A⑧ C④
	ケ 考えの根拠を持ち、多様な表現で伝えようとしている。	☐	A⑦ B⑤⑥⑦ C③④⑤
	コ 互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている。	☐	B⑤⑦⑧⑨ C⑥
	サ 多様な考えを比較したり関連付けたりして、学習しようとしている。	☐	B⑦⑧⑨ C③⑥
	シ 既習事項や経験と重ね合わせたり、つないだりしながら、ゴールに向かおうとしている。	☐	A⑦ C④
第三次 (まとめ)	ス 自分の成長に気付き、表現しようとしている。	☐	A⑦⑨ C⑦
	セ 分かったこと（できたこと）と分からなかったこと（できなかったこと）を理解し、整理している。	☐	A⑨ B⑩ C⑧⑪
	ソ 学んだことの意義や学びの面白さに気付き、自分の学びに生かそうとしている。	☐	A⑩ B⑩ C⑦⑨⑩⑪
	タ 他者の学びの良さに気付き、自分の学びに生かそうとしている。	☐	B⑩⑪
	チ 他者の評価から、自分の学びの良い点や改善すべき点に気付いている。	☐	B⑪ C⑨

✓が付かなかった項目については、次の授業（単元）で授業改善の手立て（次頁表 2）を取ります。

ダウンロードはこちらから 

表 2 授業改善の手立てシート

過程	A 主体的な学び	B 対話的な学び	C 深い学び
第一次 (導入)	①興味・関心を持って取り組めるように、単元の魅力を語る。 ②学習の目的(身に付けさせたい資質・能力)が生活に役立つことを明示する。 ③モデルを示すことで、学習のゴールを具体的に見せる。 ④学習計画を示し、学習の見通しを持たせる。 ⑤学校図書館やインターネットから多様な情報を収集させたり提示したりして、自分の問いを持たせるための動機付けをする。	①答えが複数あるなど、単純に答えることができず、集団で解決する必然性のある課題を設定する。 ②個人の問いを共有させる。 ③課題に対する予想と解決方法を話し合う場を設定する。 ④話合いのルールを明示し、確認させる。	①少し難しい課題を設定する。 ②提示した問いの中から、自分に合った問いを選ばせる。
第二次 (展開)	⑥一人で自分の考えを持たせる時間を設定する。 ⑦自分の考えの過程を記録させる。 ⑧ブックリストやリファレンスサービスを利用して、生徒が自ら情報収集できる環境を作る。	⑤話合いのテーマに合ったグループの形式、人数、構成を工夫する。 ⑥思考ツールを用いて、個人の考えを可視化する。 ⑦自分と他者の共通点や相違点を比較させることで、自分の考えを確かなものにさせる。 ⑧付箋などを用いて、立場を明確にした交流をさせる。 ⑨理由や根拠(なぜ、どうして)、具体例(例えばどうなる)など、問い返しの問題を一覧表にして、生徒がいつでも使えるようにしておく。	③思考ツールを用いて、様々な考えを比較したり関連付けたりする場を設定する。 ④ファイリングさせておいたワークシート等を振り返ることにより、既習の知識・技能を活用させる。 ⑤ヒントカードを用いて、思考を促す。 ⑥交流の内容を全体で発表したり掲示したりして共有させる。
第三次 (まとめ)	⑨考えの過程を振り返ることで、自己の変容を理解させる。 ⑩身に付けた資質・能力が使える場面を提示することで、学んだことと学校生活や実社会とのつながりに気付かせる。	⑩共有した内容を基に、他者の意見を整理させる。 ⑪多様な他者からの評価の場を設定する。	⑦毎時間、毎単元の終わりに必ず振り返りを記述させる時間を確保する。 ⑧導入で示した評価規準に基づいて、評価の仕方を具体的に説明する。 ⑨他者からの評価を参考にしながら、自分の考えを深め、確かなものにさせる。 ⑩ワークシートの中の振り返るポイントを示すことで、気付いたことや考えたことを言語化させる。 ⑪授業で「やったこと」「できたこと」「これからやってみたいこと」を自分の言葉で表現させる。

※ここに示しているのは、あくまでも手立ての一例です。

ダウンロードはこちらから→



表 1「生徒の姿チェックシート」と表 2「授業改善の手立て」の使い方

- ① 新しい単元に入る前に、表 1「生徒の姿チェックシート」を用いて、現在自分が指導している学級の生徒の様子を把握してみましょう。

今回の単元では、第一次（導入）の段階で、生徒が積極的に学ぼうとする姿があまり見られなかった。教材に興味を持っていないのだろうか…。次の単元に入る前に、改善策を考えよう。まず、生徒の姿をチェックすると……。

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☐	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている。	☐	A⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④

表 1「生徒の姿チェックシート」では、項目ア、イ、ウにチェックが付かなかった。この生徒の実態に対して、どのような授業改善の手立てが取れるだろうか？

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☐	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている。	☐	A⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④

- ② 表 1「生徒の姿チェックシート」の「授業改善の手立て」の欄に示されている記号・番号（A①など）を参考にしながら、表 2「授業改善の手立てシート」に示されているような指導を行っているかを振り返り、自らの授業の課題を把握しましょう。

表 1「生徒の姿チェックシート」によると、項目ア、イ、ウに対して、A①②③④⑤C①②の手立てが考えられるようだ。表 2「授業改善の手立て」で、具体的な内容を見てみよう。

表 2「授業改善の手立て」の中の手立てのうち、A①②③⑤、C①は今回の単元に取り入れていなかった。つまり、これが現在の自分の課題ということだ。

過程	A 主体的な学び	B 対話的な学び	C 深い学び
第一次 (導入)	①興味・関心を持って取り組めるように、単元の魅力を語る。 ②学習の目的(身に付けさせたい資質・能力)が生活に役立つことを明示する。 ③モデルを示すことで、学習のゴールを具体的に见せる。 ④学習計画を示し、学習の見通しを持たせる。 ⑤学校図書館やインターネットから多様な情報を収集させたり提示したりして、自分の問いを持たせるための動機付けをする。	①答えが複数あるなど、単純に答えることができません、集団で解決する必然性のある課題を設定する。 ②個人の問いを共有させる。 ③課題に対する予想と解決方法を話し合う場を設定する。 ④話し合いのルールを明示し、確認させる。	①少し難しい課題を設定する。 ②提示した問いの中から、自分に合った問いを選ばせる。

- ③ 表 2「授業改善の手立てシート」に示されている手立てを参考にしながら、課題を解決するために取り入れてみたいと思う手立てを検討して、決めましょう。

A④とC②は、今までどおりに継続していこう。A⑤は、次の単元で取り入れることはできないから、今回は見送ることにしよう。それでは、次の単元では、「A④、C②」に加えて、「A①②③、C①」を新たに取り入れて授業を組み立ててみよう！

- ④ 決定した手立てを、新しい単元に取り入れて、単元を構想し、新たな授業実践を行いましょう。

表 1「生徒の姿チェックシート」と表 2「授業改善の手立てシート」の使用例

ここで、次項(3)授業の質的改善のプロセスにある、A校の実践の振り返りの様子をご紹介します。

6 月に行った、説明文「ダイコンは大きな根？」の授業では、読んだことを基に、自分の考えを書いたり話したりすることができていない生徒がいた。次の説明文を取り扱う単元に入る前に、表 1「生徒の姿チェックシート」でチェックをすると……。



第一次（導入）のイと、第二次（展開）のキにチェックが付かない。授業改善の手立てを考えてみよう。

表 1 生徒の姿チェックシート

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次（導入）	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☒	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている。	☒	A③⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
第二次（展開）	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④
	カ 困難な学習にも諦めずに取り組んでいる。	☒	A⑥ C⑤⑥
	キ 自分の考えを持って学習に取り組んでいる。	☐	A⑥⑦ B⑤⑦ C③④⑤
	ク 課題解決につながる情報を探し、利用しようとしている。	☒	A⑧ C④
	ケ 考えの根拠を持ち、多様な表現で伝えようとしている。	☒	A⑦ B⑤⑥⑦ C③④⑤
	コ 互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている。	☒	B⑤⑦⑧⑨ C⑥
	サ 多様な考えを比較したり関連付けたりして、学習しようとしている。	☒	B⑦⑧⑨ C③⑤
	シ 既習事項や経験と重ね合わせたり、つないだりしながら、ゴールに向かおうとしている。	☒	A⑦ C④
第三次（まとめ）	ス 自分の成長に気づき、表現しようとしている。	☒	A⑦⑨ C⑦
	セ 分かったこと（できたこと）と分らなかったこと（できなかったこと）を理解し、整理している。	☒	A⑨ B⑧ C⑧⑩
	ソ 学んだことの意義や学びの面白さに気づき、自分の学びに生かそうとしている。	☒	A⑩ B⑩ C⑦⑧⑨⑩
	タ 他者の学びの良さに気づき、自分の学びに生かそうとしている。	☒	B⑨⑩
	チ 他者の評価から、自分の学びの良い点や改善すべき点に気付いている。	☒	B⑩ C⑨

表 1「生徒の姿チェックシート」によると、項目イとキに対して、A②③④⑥⑦、B⑥⑦、C③④⑤の手立てが考えられるようだ。

表 2「授業改善の手立てシート」で内容を確認してみよう。



表 1 生徒の姿チェックシート

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次（導入）	ア 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☒	A①⑤ C①
	イ ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている。	☒	A③⑤ C②
	エ 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
第二次（展開）	オ 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④
	カ 困難な学習にも諦めずに取り組んでいる。	☒	A⑥ C⑤⑥
	キ 自分の考えを持って学習に取り組んでいる。	☐	A⑥⑦ B⑤⑦ C③④⑤
	ク 課題解決につながる情報を探し、利用しようとしている。	☒	A⑧ C④
	ケ 考えの根拠を持ち、多様な表現で伝えようとしている。	☒	A⑦ B⑤⑥⑦ C③④⑤
	コ 互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとしている。	☒	B⑤⑦⑧⑨ C⑥
	サ 多様な考えを比較したり関連付けたりして、学習しようとしている。	☒	B⑦⑧⑨ C③⑤
	シ 既習事項や経験と重ね合わせたり、つないだりしながら、ゴールに向かおうとしている。	☒	A⑦ C④
第三次（まとめ）	ス 自分の成長に気づき、表現しようとしている。	☒	A⑦⑨ C⑦
	セ 分かったこと（できたこと）と分らなかったこと（できなかったこと）を理解し、整理している。	☒	A⑨ B⑧ C⑧⑩
	ソ 学んだことの意義や学びの面白さに気づき、自分の学びに生かそうとしている。	☒	A⑩ B⑩ C⑦⑧⑨⑩
	タ 他者の学びの良さに気づき、自分の学びに生かそうとしている。	☒	B⑨⑩
	チ 他者の評価から、自分の学びの良い点や改善すべき点に気付いている。	☒	B⑩ C⑨

過程	生徒の望ましい姿	チェック	授業改善の手立て
第一次 (導入)	A 学習内容に関心を示し、意欲的に学ぼうとしている。	☒	A①⑤ C①
	I ゴールのイメージを持って学習に向かおうとしている。	☐	A②③④
	ウ 自分なりの問いを持って学習しようとしている。	☒	A③⑤ C②
	E 話し合い活動に意欲を持って参加しようとしている。	☒	B①②③
	O 他者とのコミュニケーションを取りながら、学習に向かおうとしている。	☒	B②④
第二次 (展開)	カ 困難な学習にも諦めずに取り組んでいる。	☒	A⑤ C③⑤
	キ 自分の考えを持って学習に取り組んでいる。	☐	A⑥⑦ B⑥⑦ C③④⑤
	ク 課題解決につながる情報を探し、利用しようとしている。	☒	A⑥ C④
	ケ 考えの根拠を持ち、多様な表現で伝えようとしている。	☒	A⑦ B⑤⑥⑦ C③④⑤

過程	A 主体的な学び	B 対話的な学び	C 深い学び
第一次 (導入)	①興味・関心を持って取り組めるように、単元の魅力を高める。 ②学習の目的(身に付けさせたい資質・能力)が生活に役立つことを明示する。 ③モデルを示すことで、学習のゴールを具体的に见せる。 ④学習計画を示し、学習の見通しを持たせる。 ⑤学校図書館やインターネットから多様な情報を収集させたり提示したりして、自分の問いを持たせるための動機付けをする。	①答えが複数あるなど、単純に答えることができず、集団で解決する必然性のある課題を設定する。 ②個人の問いを共有させる。 ③課題に対する予想と解決方法を話し合う場を設定する。 ④話し合いのルールを明示し、確認させる。	①少し難しい課題を設定する。 ②提示した問いの中から、自分に合った問いを選ばせる。
	⑥一人で自分の考えを持たせる時間を設定する。 ⑦自分の考えの過程を記録させる。	⑤話し合いのテーマに合ったグループの形式、人数、構成を工夫する。 ⑧思考ツールを用いて、個人の考えを可視化する。 ⑦自分と他者の共通点や相違点を比較させることで、自分の考えを確かなものにさせる。	③思考ツールを用いて、様々な考えを比較したり関連付けたりする場を設定する。 ④ファイリングさせておいたワークシート等を振り返ることにより、既習の知識・技能を活用させる。
	⑧ブックリストやリファレンスサービスを利用して、生徒が自ら情報収集できる環境を作る。	⑧付箋などを用いて、立場を明確にした交流をさせる。 ⑨理由や根拠(なぜ、どうして)、具体例(例えばどうなる)など、問い返しの質問を一覧表にして、生徒がいつでも使えるようにしておく。	⑤ヒントカードを用いて、思考を促す。 ⑥交流の内容を全体で発表したり提示したりして共有させる。
	⑨考えの過程を振り返ること	⑩共有した内容を基に、他者の	⑦毎時間、毎単元の終わり

表2「授業改善の手立て」で、A②③④⑥⑦、B⑥⑦、C③④⑤を見てみると……。



授業改善の手立てはたくさんある。この中で、次の単元で実践できそうなのは……A③の手立てだ。まずは、A③を取り入れてみよう。その他の手立ては、別の単元で試してみよう。

6月の授業では、生徒に言語活動に取り組ませる際に、モデルを示していませんでした。読んだことを基に、自分の考えを書くことができなかったのは、せっかく文章を読み取って、自分なりの考えを持っていても、どのように書いたら良いのかが分かっていなかったからだったと考えられます。そこで9月に取り組んだ、同じ説明文である教材「幻の魚は生きていた」の授業では、書き進め方や語彙についてのモデルを示した学習の手引きを配付しました。

表1「生徒の姿チェックシート」と表2「授業改善の手立て」で明らかになった手立てを、1単元で全て実践する必要はありません。その時の生徒の様子や用いる教材、必要と考えられる授業構成に合わせて、実践可能な手立てを取り入れてみてください。ふだんの授業に、新たな手立てを少しずつ取り入れ続けることで、授業は質的に改善されていくと考えます。なお、表1「生徒の姿チェックシート」と表2「授業改善の手立て」はまだ制作途中のものです。今後、より使いやすいものに改良していく予定です。